

令和2年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	食産業学群
学群(学部)長名	西川正純

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	継続：事前・事後学修について今期は遠隔授業であったことから各教員は課題等を提示しているケースが多かった。しかしながら、時間の確保が昨年より延びてはいるものの十分でない状況が伺える。
	理由	コロナ禍の影響で前期は全て遠隔授業で実施したこともあり、事前・事後の学習時間の確保について指導が行き届かなかったことが挙げられる。
②	課題	継続：専門基礎科目・専門科目の座学は今期、遠隔授業で実施し、運営は概ね良好であった。しかしながら授業の理解度については、学生が思う目標到達度と教員が想定している到達度の間に差があるとの意見もあり、改善すべき課題であると考えます。
	理由	十分に学修効果が得られなかったなどが理由として、講義の追加説明などで板書が使えずほとんど口頭であったこと、接続環境の問題から一方的に講義を進めるケースが多く、双方向のディスカッションが行えなかったことなどが挙げられる。
③	課題	今期は遠隔授業であったことから、対面で行う必要がある実験・実習科目は、概要等の説明以外の操作や作業を伴う部分については後期で実施することとしたので、学修機会が十分に確保できなかった。
	理由	コロナ禍の影響で前期は全て遠隔授業で実施したことが理由である。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	本課題については、対面授業、遠隔授業であっても事前・事後学修時間は十分な時間の確保が出来ていない。各教員は宿題、小レポート、小テスト、グループワーク、練習問題等、事前・事後学修を促進する取り組みや履修者同士の教え合い、学ぶ合うことで主体的で能動的な学びを実現できるLTD（Learning Through Discussion）を取り入れるなどして、継続的かつ積極的に進めていただくしかない。より一層事前・事後学修を促すよう2月の教員会議・教授会、学類会を通じて、お願いする。
	本年度の後期授業については、専門基礎科目・専門科目は7割以上、対面授業で実施しており、課題は改善していると考えられる。ただ遠隔授業では、履修学生から講義資料が見易い、集中できるなどの利点も聞かれることから、遠隔と対面を組み合わせるハイブリット型授業について、次年度FD等で討議したいと考えている。
③	前期実施予定であった実験・実習科目の操作や作業については、後期に繰り越して対面で実施しているので、解決に向かっている。ただし、次年度以降も新型コロナ或いは新たな感染症の拡大も考えられることから、遠隔授業による実験・実習科目の操作や作業の実施方法について、次年度FD等で討議したいと考えている。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

授業実施の良い事例としては、今期は遠隔授業であったことから、Formsによる出欠確認と共にコメントを記入させる科目が多かった。そのこともあり、積極的にコメントや質問を寄せる学生も多く理解度の底上げに繋がったと考えられる。また、講義資料を予めTeamsにアップし事前に学生が目を通しておけるよう工夫した科目も多かった。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

教育改善計画としては、次年度は従来の対面授業が中心となると予想されることから昨年に引き続き、自主的な学習に期待してもなかなか取り組めない学生向けに、事前に学ぶポイントを伝え授業に臨ませる、配布される資料の読み方、使い方について指導し、読んだかどうかの確認等を行う。さらに、双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会（FD）、さらに遠隔と対面を組み合わせるハイブリット型授業の可能性について、学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。